

学位論文審査結果の要旨

氏名	加藤 弘正
審査委員	主査 石井 榮一 副査 浅野 水辺 副査 熊木 天児 副査 中城 公一 副査 堀内 史枝

論文名

両親の職業・学歴及び家計の年収と3歳児幼児の齲蝕有症率との関連

審査結果の要旨

齲蝕は小児のありふれた慢性疾患の1つであり、そのリスク要因に関する疫学研究は、齲蝕原因菌やフッ化物応用、歯科保健行動に焦点を当てたものが多い。本研究では3歳児小児の齲蝕の有病率と両親の社会経済的要因、特に両親の職業、学歴および家計の年収との関係について解析を行った。

方法は九州沖縄地区で3歳児健診を受診した62,449名の保護者に調査票を送り、6,576名より齲蝕の情報を得ることができた。そのうち欠損データのない6,315名を解析対象とした。両親の職業は日本標準職業分類に従い定義した。

結果。齲蝕の有病率は14.7%であった。父親の職業は、専門的・技術的職業従事者、事務従事者、販売従事者、保安職業従事者、生産工程従事者で、母親では、専門的・技術的職業従事者、サービス業従事者で齲蝕有病率の低下と有意に関連していた。教育歴では、両親とも教育歴が高くなるにつれて有病率が低下していた。また年収の増加に伴って有病率は有意に低下していた。

結論。両親の専門的・技術的職業等ある種の職業、両親の学歴、および年収が3歳児の齲蝕有病率と負の相関があり、予防的な関連を認めた。またこの結果は欧米の研究結果と一致しており、今後メカニズムの解明も含めてエビデンスの蓄積をしていく必要がある。

公開審査会は平成30年6月25日に開催され、申請者は研究内容を英語で明確に発表した後に、審査委員から本研究に関する以下の質問とそれに対する回答が得られた。

1. 親の職業分布は日本人一般と同じか。研究対象にバイアスはないか。→ いくらかのバイアスはあるかもしれない。
2. 母親が管理的職業従事者で齲蝕有病率が高いが、それに対する考えは？ → 一部の職業で有病率が高いものもあるが、有意差はない。
3. 齲蝕の定義では、“未処置と処置”を両方含んでいるが、“未処置”のみに限ると結果はどうなるのか？ → 解析はやっていないが、結果は同じと考えられる。
4. フッ素使用と有病率の差はあるか？ → 差はあると思うが解析はしていない。
5. 昔と比べると齲蝕有病率は減っているが、この数字は現状を反映していると考えてよいか？ → ほぼ現状を反映していると考えている。
6. 齲蝕も軽症から重症まで様々だが、今回の解析は全て含んでいると考えて良いか？ → 解析は全て含んで行った。
7. 解析対象が増えると注目される職業はあるか？ → 日々雇用などの職業は可能性がある。
8. 今後この結果をどう生かせていくのか？ → 行政と連携して啓蒙活動が必要。
9. 子どもの発達と齲蝕の関係は？ → 今後の検討課題としたい。
10. 虐待と齲蝕の関係は？ → 現時点では鑑別が難しい。
11. 3歳児より前、例えば1歳半児で同様の解析は可能か？ → 1歳半はまだ乳歯が十分に生えていないので、解析は難しい。
12. 北と南の地域差はあるか？ → 北のデータを集積して解析してみないとわからない。
13. 兄弟や家族の有無との関係はないか？ → 祖父母がいると口移しで齲蝕になるやすいという報告がある。

審査委員は、申請者が本論文関連領域に対して学位授与に値する十分な見識と能力を有することを全員一致で確認し、本論文が学位授与に値すると判定した。